

研究主題

「『主体的に生活や活動を進めようとする幼児』を目指した話し合いの充実

— 教師が指導・援助や環境構成の手だてを整理するための『話し合い見える化シート』を活用して —

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

江東区立南陽幼稚園 主任教諭 武茂 妙子

第1 研究のねらい

「東京都教育ビジョン（第5次）」（東京都教育委員会，2024）には、2040年以降の将来の予測が困難な時代にあって、個別最適な学びによって、より主体的に生きていく力を育むことが重要であると示されている。人格形成の基礎を培う時期である幼稚園において、幼児が自信をもって主体的に生活する姿を育むことが、主体的に生きていく力につながると考える。その力を育むためには、幼稚園生活での遊びや行事、活動に期待感をもって取り組み、達成感を味わい、周囲の環境や出来事に心を動かし、愛着をもつ体験をすることが重要である。そして、その取組を協同的な活動として経験できるよう工夫をし、協同性を育むことでより一人一人の自己発揮につながると考えた。

本研究では、「主体的に生活や活動を進めようとする幼児の姿」を、「自ら環境に関わり、周囲での出来事を自分のこととして捉えて生活・活動する姿」と定義する。協同性を育むためには、グループや学級全体での活動を幼児が互いのよさを認め合いながら行えるようにすることが必要である。それらの活動の「導入」となる話し合いを充実させることで、活動自体を主体的なものとするができると考える。幼稚園教育要領解説には、幼児が話し合いに参加する際の思いの表し方には様々な姿が見られることが示されている。本研究では特に、幼児の実態を個・集団の双方の視点から把握する上での留意点を明らかにしたいと考えた。話し合いをより主体的なものとするためには、教師が幼児の実態を多面的に捉え、それを踏まえたうえで教師の指導・援助、環境構成を考えられるようにすることが重要である。

そこで、教師が話し合いについて考える際、計画、実践、評価等における教師の指導・援助、環境構成のポイントについて整理することができる「話し合い見える化シート」を開発し、活動に主体性をもって取り組み、自己発揮・自己抑制しながら、友達と力を合わせ、自信をもって行動する幼児の姿の実現を図りたいと考えた。

第2 研究仮説

教師が「話し合い見える化シート」を活用し、指導や援助、環境構成をより幼児の実態に即することができるようになれば、幼児がより主体的に話し合いに取り組むようになるのではないかと考えた。

第3 研究の方法と内容

1 基礎研究（4～7月）

- ・ 幼稚園教育要領解説の「協同性」「主体性」等の文言についてどのような記載があるのかを捉える。
- ・ 幼児期における「話し合い」についての同解説における記載内容や先行研究の学びをまとめる。
- ・ 小学校学習指導要領解説の総則編や国語科、特別活動、道徳編から学んだ主体的な話し合いに向けての重要な点をまとめ、開発物の観点に生かす。

2 調査研究（7月～8月）

(1) 実施内容及び対象

- ・ 幼児教育段階で行う「話し合い」について、幼稚園教員等に意識や指導の実態を調査するため、港区、台東区、江東区の幼児教育施設 41 園を対象に実施した。
- ・ 幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指す観点から、幼児教育施設で育まれた資質・能力の現状について、小学校教員の意識を調査するため、江東区の小学校 7 校を対象に実施した。

(2) 調査結果

- ・ 幼児教育施設、小学校の双方において話し合いの活動を重要視し、実施していることが分かった。（幼児教育施設側 117 名のうち 115 名、98%の保育者が行っていると回答、小学校側 53 名のうち 30 名、57%の教師が月に 10 回以上の話し合い活動を行っていると回答。）
- ・ 話し合いを幼児にとって主体的なものとするために教師が課題となっていると感じることが明らかになった。（図 1、2）

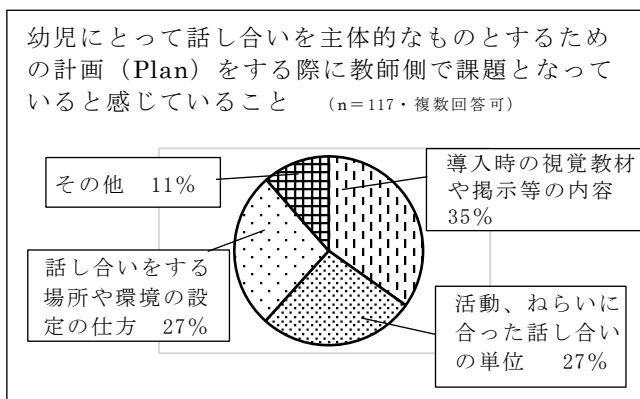


図 1 幼児教育施設の保育者を対象とした調査結果 1

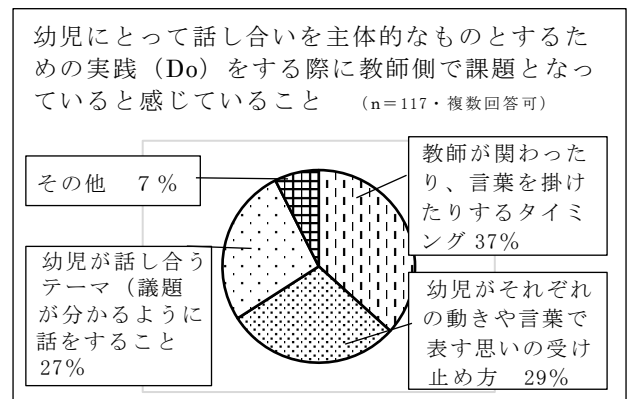


図 2 幼児教育施設の保育者を対象とした調査結果 2

3 検証保育（10月～11月）

都内公立幼稚園年長 5 歳児 1 学級において、成果物である「話し合い見える化シート」の有効性と「幼児が話し合いに主体的に取り組む姿」（表 1）を検証した。10 月は T 1 として協同的な活動と活動に向けての話し合いを、学級全体の活動として 2 回実施した。11 月は T 2 として行事に向けて協同的な活動の継続した取組の部分的な援助や、対象児の観察として 3 回実施した。

(1) 検証保育の概要

〈T 1 として実施〉

令和 6 年 10 月 21 日 第 1 回「グループごとにサツマイモを描こう」

令和 6 年 10 月 31 日 第 2 回「グループごとに積木で街をつくろう」

〈T 2 として実施〉

令和 6 年 11 月 8 日・21 日・25 日 第 3 回～5 回『こども会』という劇や人形劇等の様々な表現活動を発表する行事に向けてのグループごとや学級全体の活動」

『主体的に生活や活動を進めようとする幼児』を目指した話し合いの充実
 ― 教師が指導・援助や環境構成の手だてを整理するための『話し合い見える化シート』を活用して ―

表 1 幼児が話し合いに主体的に取り組む姿

話し合いの流れ	幼児の具体的な姿
導入	・ 教師の話聞き、内容（議題）を理解しようとする。 ・ 自分なりの思いや考えをもつ。 ・ 活動に期待や見通しをもつ。
話し合い	・ 内容（議題）を理解し、自分の考えをもつ。 ・ 友達、教師の話聞こうとする。 ・ 自分の思い、考えを動きや表情で表す。 ・ 自分の思い、考えを言葉にする。
終末 (振り返り)	・ 友達や自分のよさに気付く。 ・ 話し合った内容を理解し、整理して受け止める。 ・ 今後の活動に期待や見通しをもつ。

対象児 A、B の取り組む姿に表 1 の姿が 1 項目以上表れることを目指し、保育の援助・環境構成を行った。

(2) 検証保育から明らかになったこと

〈幼児が話し合いに主体的に取り組む姿（表 1）からの対象児の姿の捉え、変容〉

○ 対象児の変容

対象児 A

- ・ 自分の思いや考えはもっているが、自信のなさから周りに自ら伝えようとする姿が見られることが少なかった。
- ・ 話し合い・活動を経験する中で、内容（議題）を理解することで、同じグループの幼児に自ら思いを伝える姿や活動の際に解決すべきことがあった時に、再度話し合いをすることを提案する姿が見られるようになった。
- ・ 活動時に見通しをもち、次に取り組むべきことを捉えたり、予測して行動したりする姿が見られるようになった。

対象児 B

- ・ 自分の思いや考えを動きや言葉で表すことができるが、周りに伝えずに行動し始めることが多かった。
- ・ 話し合い・活動を経験する中で、同じグループの幼児の思いや考えを聞こうとする姿が見られるようになった。また、他者の思いや考えを聞いた上での、自分の思いを表すことが多くなった。

- 対象児における幼児が話し合いに主体的に取り組む姿（表 1）の捉えについて検証保育において、対象児の話し合いにおいて表れた姿を表 2 のように捉えた。

表 2 対象児の話し合いにおいて表れた姿の捉え

話し合いの流れ	幼児の具体的な姿	対象児 A		対象児 B	
		検証前	検証後	検証前	検証後
導入	教師の話聞き、内容（議題）を理解しようとする。	○	○	○	○
	自分なりの思いや考えをもつ。	○	○	○	○
	活動に期待や見通しをもつ。	○	○		○
話し合い	内容（議題）を理解し、自分の考えをもつ。	○	○	○	○
	友達、教師の話聞こうとする。	○	○	○	○
	自分の思い、考えを動きや表情で表す。	○	○	○	○
	自分の思い、考えを言葉にする。		○		
終結 (振り返り)	友達や自分のよさに気付く。	○	○	○	○
	話し合った内容を理解し、整理して受け止める。	○	○		
	今後の活動に期待や見通しをもつ。		○		

『主体的に生活や活動を進めようとする幼児』を目指した話し合いの充実
— 教師が指導・援助や環境構成の手だてを整理するための『話し合い見える化シート』を活用して—

検証保育を通して、対象児A・B共に姿として表れた項目が増えた。また、項目の内容、1つ以上の項目が表れることを目指すという基準が適したものであることを検証保育後の協議を通し、検証することができた。

〈「話し合い見える化シート」の改善〉

検証保育を通し、明らかになったことを整理し、成果物である「話し合い見える化シート」（図3）の改善を図った。

○ 明らかになった内容

- ・ 幼児理解に基づいたねらいや予想される幼児の姿から、具体的な教師の援助や環境構成を考えることが重要である。
- ・ 幼児にとって必要感を伴う話し合いの内容を選択することや、「導入」や「幼児の振り返り」の意味を捉えて、適切に行うことが大切である。
- ・ 協同的な活動においての話し合いに着目して研究を進めていたが、話し合いと活動を切り離して考えることが難しいこともあり、成果物では、双方を捉えられるような形式とする必要がある。

○ 「話し合い見える化シート」の改善点について

- ・ 幼児理解に基づいた「ねらい」「予想される幼児の姿」から教師の援助・環境構成を考え始める形式とした。
- ・ 教師の援助の方向性を「関わる」「引き出す」「見守る」から意識できるようにした。
- ・ 話し合い・活動における目指す幼児の姿を表し、教師の援助・環境構成を計画（P）、実践（D）、振り返り（C）、改善（A）のサイクルで行い、幼児の成長、話し合い・活動の充実につなげる。

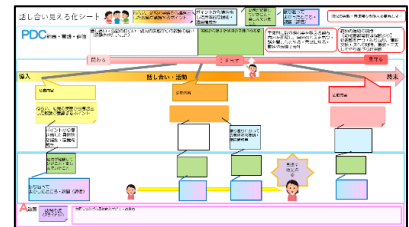


図3 話し合い見える化シート

〈事後の協議を通して〉

検証保育後の担任教諭との協議において、教師の指導・援助や環境構成について開発物を使用しながら整理し、その効果を見取ることができた。また、幼児が話し合いに主体的に取り組む姿（表1）の項目が対象児の姿において増加したことを共有することができた。

第4 研究の成果

- ・ 「話し合い見える化シート」で教師の考えを可視化し分析することで、幼児の実態に即した指導や援助、環境構成、またそれらを踏まえた適切な保育の評価や改善を行うことができ、目指す幼児像の姿を表すことにつなげることができた。
- ・ 幼稚園教育要領解説を根拠とした視点や教師の援助の具体的な方向性を示すことができた。
- ・ 「導入」と「幼児の振り返り」の意味を小学校教育の単元計画から捉えることができた。

第5 今後の課題

- ・ 教師の援助の方向性として「関わる」「引き出す」「見守る」という視点を示したが、「話し合い見える化シート」を活用することで、継続して検証を行う。
- ・ 「話し合い見える化シート」を他の教員との協議等でも活用し、更なる幼児の成長の捉えや話し合い・活動の充実につなげる。